

歴史の真実を学び

過去の過ちを繰り返してはならないことを 現地に立つことで改めて実感!!

2018平頂山事件平和研修

9・18歴史博物館訪問



参加者からは「平頂山事件を知らなかったが、日本が犯した過去の過ちを学び、現地に立つことの重要性を実感した」「安倍政権によって憲法改悪が目指され、軍国主義の復活とともに悲惨な歴史が繰り返されようとしている」「職場では、今平和運動をやるべきではないという声があるが、記念館や遺骨館を見学して、絶対に戦争を起こしてはならない。そして、平和運動の必要性を根強く訴えていかなければならないと感じた」等の感想があり、将来を見据えて今こそ反戦平和の声をあげていくことを確認しました。

いかなる戦争も許されるものではありません。各種平和研修で学んだ「命の尊さ」と「戦争の悲惨さ」を広く訴え続けていきます。

9月14日～18日、「2018平頂山事件平和研修」を15名の仲間と創り出しました。今年は、日中両国間の恒久的な関係発展を謳った平和友好条約の締結から40年を迎えました。現地では、「撫順戦犯管理所」「平頂山惨案纪念馆」「撫順炭鉱」「9・18歴史博物館」等を見学し、当時日本軍が犯した数々の残虐行為を目の当たりにしました。

記念式典にはJR東労組含め400名の関係者が参加し、これまでの取り組みで、日中友好の関係を築いてきたことから、JR東労組として団長の村田副委員長が挨拶を行いました。「日本軍が行った蛮行に対してのお詫びと歴史をしっかりと学び、深い反省を基礎にして、明るい未来を創っていくこと」が語られました。年月をかけて相手の立場に立ち、友好関係をつくることや、加害の歴史を語り継いでいくことが私たちにできる償いの形ではないでしょうか。また、平頂山惨案纪念馆の周館長が今年で退任します。これまで以上に日中友好のためにお互いが尽力し、交流を続けていくことを確認しました。

9月14日～18日、「2018平頂山事件平和研修」を15名の仲間と創り出しました。今年は、日中両国間の恒久的な関係発展を謳った平和友好条約の締結から40年を迎えました。現地では、「撫順戦犯管理所」「平頂山惨案纪念馆」「撫順炭鉱」「9・18歴史博物館」等を見学し、当時日本軍が犯した数々の残虐行為を目の当たりにしました。



参加者全員で平和を誓う



記念式典に参列

「職場では、今平和運動をやるべきではないという声があるが、記念館や遺骨館を見学して、絶対に戦争を起こしてはならない。そして、平和運動の必要性を根強く訴えていかなければならないと感じた」等の感想があり、将来を見据えて今こそ反戦平和の声をあげていくことを確認しました。



ドンブロフスキ氏から「連帯」のたたかいについての講演を真剣に聞きました



一人1週間10円カンパで建てた1970年造船工慰霊碑（上）とヴィエック炭坑の80年改革犠牲者追悼慰霊塔（下）



▲アウシュビッツ絶滅収容所の「死の壁」に献花・黙祷を捧げる

◀ヴィエック炭鉱にて

本当の歴史を自分の目で見て学び取ろう！

2018ポーランド平和研修

9月21日～29日の9日間、19名がポーランド研修で学んできました。

今年独立100周年を迎えたポーランドの、クラクフ（ヴァヴェル城、まんが博物館等）、オシフェンチム（アウシュビッツ絶滅収容所、ビルケナウ絶滅収容所）、カトヴィエツェ（ヴィエック炭坑）、ワルシャワ（ゲット英雄記念碑、ワルシャワ蜂起博物館等）、ソポト（1970年造船工慰霊碑、ヴェステルプラッテ等）の都市を訪れました。第二次世界大戦前と後、さらには現在のポーランドを学ぶ研修内容です。そして、自主管理労組「連帯」の発足までの歴史や、当時のたたかいなどの講演を聞くことにより、ポーランドの歴史と、労働者のたたかいの歴史を学び、私たちは何をすべきなのか考えることができました。

アウシュビッツ絶滅収容所について参加者からは「想像を絶した」「写真や映像で見るものと実際に見て感じるものの違いを強烈に感じた」「アウシュビッツ絶滅収容所に最初に送られたのはポーランド人だったこと、送られたくないとしてゲットでたたかいたユダヤ人がいたことを学んだ」などの感想がありました。

かい、政府・権力側から弾圧を受けました。その当時の講演と現地を訪問して説明をいただき、団結してたたかうことを権力側は嫌い、攻撃してくることは、いつの時代も同じであることを学びました。

JR東労組として、国際平和を希求し、各国労組との連帯・友好を目指すことを目的に、1990年代に一人1週間10円カンパを行い、ヴィエック炭坑、70年造船工慰霊碑建立に協力しました。また、まんが博物館とその隣にある日本語学校もJR東労組が建設の一躍をカンパ活動などで担っています。

27日の総括会議では今回の研修で学んだことや感じたことを本音で語り、どのように伝えるかみんな考えて実践してことを確認しました。そして、「平和な社会でなければ私たちの生活は守られない、だからこそ平和を守らなければならない、平和運動をなくしてはならない」ことを心に刻みました。正しく伝えることは難しいことであると研修で学びましたが、団結を強化するために正しく伝えることが非常に重要です。そのためには仲間との対話を大切に、組織強化・拡大につなげていく決意を新たにしました。